

札幌市議団ニュース

2010年10月12日 No.20
日本共産党市議団事務局発行
電話 211-3221 FAX218-5124

決算特別委員会・論戦特集 井上議員

～ 市住 住み替えは 高齢者にとって待ったなし～

井上ひさ子議員

> 市営住宅の計画修繕は、階段回りの塗装、排水管の改修、電気器具の取り替えなど入居者からは喜ばれ、仕事のない時期の地元中小企業等の受注機会の拡大にもつながっている。積み残し分も含めどのような見通しか。

築40年を経過した市営住宅が多数で、バリアフリーの未対応、浴室の未整備住宅も残っている。そこで、ストック総合活用計画～前期計画(2006-2010年)の到達と後期計画(2011-2015年)についての考え方を伺う。

三井住宅担当部長

> 計画修繕は、本予算、補正あわせて本年度は6.3億円で、平成22年度末の未執行は14.45億円となる。厳しい財政事情ではあるが、今後予算確保につとめながら効率的な執行を図っていく。また、ストック総合活用計画の前期5年計画は達成(下野幌、幌北団地の建て替え、北30条団地、光星団地のエレベーター設置)、後期5年計画の見直しは、平成23年度半ば頃になるかと思う。

井上ひさ子議員

> 後期計画には月寒団地の建て替えは含まれている。「冬季間が寒い」「湯船が高くて入れない」「壁が汚い」などの声がでている西区発寒団地(1～9棟以外)は、いつ頃になるか。

エレベーター設置や介護サービスを受けるには移送しやすい玄関、廊下など、高齢者、障害者対応が求められていると思うがどうか。

また、住み替えについては遅々として進んでいないが、5階建に長く住んでいる高齢者で、病院に行くのに奥さんをおんぶって肋骨を骨折した方もいる。「回数を減らしながらやっと自力で買物している」「1-2階に移ることを希望したい」など、この地域で暮らしたいという高齢者の待ったなしの願いをどのように受け止めているか。

三井住宅担当部長

> 月寒団地の次は未定。エレベーターですが既存住宅で昭和40～50年代のものはバリアフリー仕様になっていない。これらすべてを一気に建て替えるというのは無理があり、修繕によるバリアフリー化の創出も図っていきたい。

住み替えは一昨年33件、昨年29件で、とくに高齢化対応にはなっていない。今後研究していきたい。

井上ひさ子議員

> 住み替えは高齢者にとって命にかかわる待ったなしの課題。ここ市役所の5階からの上り下りを考えてみてください。お年寄りには過酷です。入居者の意見・要望をよく聞いて、早急に対応していただきたい。

最後に、この間「誰もが安心して暮らし続けられる住まいのあり方」という答申も出されたが、民間賃貸住宅のバリアフリー補助、家賃補助を検討すべきではないか。

三井住宅担当部長

> 昨日(10/5)答申を受けたばかりだが、参考にしながらバリアフリー補助、家賃補助についても研究、検討したい。